

未来型図書館つながるミーティング ～本づくりワークショップから図書館を構想しよう～

【第4回 開催報告】

1

開催概要

- 日時 : 2022年12月10日（土）13:30～16:00
- 開催場所 : 第一地区コミュニティセンター
- 参加者 : 49名
(4歳～80代まで幅広い年齢層、
職種のみなさんにご参加いただきました)



2

プログラム

1. 挨拶（宮橋市長、平賀座長）
2. オリエンテーション
3. グループ対話
(妄想ストーリーラフづくり、ペアレビュー、ストーリーの
ブラッシュアップ、グループ共有)
4. 全体共有
5. まとめ



「未来型図書館周辺の
妄想ストーリー」を描こう

3

対話内容

対話 「未来型図書館」を通して、まちのなかでどんな体験ストーリーが生まれるか

①妄想ストーリーラフづくり

ビジョン案・コンセプト案から、施設を通してどんな体験が生まれそうか考える。

②ペアレビュー

ペアでお互いのストーリー、その背景にある経験についてインビューをしながら掘り下げる。

③ブラッシュアップ

ペアレビューの気づきをもとに、改めて妄想ストーリーをブラッシュアップする。

対話結果（妄想ストーリー（抜粋））

妄想ストーリー（グループ2）

人物設定

55歳男性。会社員で35年間働いてきた。60歳の定年後の生き方に不安を抱えている。

・企業の経営者B
・学校の教師C

タイトル

つながり合い、ビジネスプランを実践する

ストーリー

Aさんは、新聞やテレビを見ていて、最近学校に行けなくなっている子どもが多くなっていると知った。そうしたときに、子どもたちの学びやつながりの場として、「フリースクール」があることを聞いた。Aさんは、それがどういうものなのか気になり、ネットで調べ詳しい本が出版されていることを知り、図書館へ通い、フリースクールの仕組みを調べ、いつか自分がこうした場をつくれないうか考えるようになった。

何度か図書館に通っていたある日、図書館にビジネス支援のコーナーがあることを知り、カウンターに訪れると、今度「創業セミナー」があることを教えてもらった。セミナーに参加し、ビジネスプランを考え、紹介し合ううちに、ますます起業の意欲がわいた。一緒に参加していた人が、学校の教師Cであり、自分のプランを話すと、Cさんもぜひ一緒にやりたいという展開になった。

二人は一緒にビジネスプランを練っていくうちに独自性を考え、企業経営者から学べるスクールをと考え、フリースクールの目玉に経営者Cさん(知り合い)に協力を依頼しプランが完成。定年後フリースクールを運営した。

<施設に必要な機能(役割)>

色んな事を知っていて、何でも相談に乗ってくれる人。自分とともに考えてくれる人がいるところであってほしい。

人物設定 社会人

タイトル まちの情報がつながり新たな体験が生まれる

ストーリー

図書館のテーマコーナーを見て周ることが楽しい。※図書館にはあちこちにいろいろなテーマの特集コーナーがある。新たな興味をひいたりする。
テーマに関連して、博物館・美術館の展示(その逆も)や公民館での講座の情報もあり、展示を見たり、講座に参加することでより深く学べる。また人との出会いもある。学んだ知識を人に伝えたくなり、趣味を同じくする人たちと一緒にミニ講座や展覧会を開催するようになる。

<施設に必要な機能(役割)>

素敵な書棚

人物設定

両親の勤務都合で東京から転校してきた中学2年生の男子

・小松市で地域づくりに頑張るNPOスタッフ
・学びを応援する図書館スタッフ

タイトル

遠く離れた親友に小松を紹介するための行動

ストーリー

まだ友人と呼べる友達がいない状態。先日転校してきたが、小松のことがよくわからないので困っている。東京にいたころの友人達からメールが届き、「小松ってどんなところ？田舎？楽しくやれそう？」と聞かれて困った。

自分自身の興味もあってどんな町か調べることにした。学校の先生の紹介で図書館を尋ねると、「なんでもインフォメーション」コーナーがあった。そのスタッフに事情を話すと、歴史・観光・スポーツ・食べ物・産業などいろいろなジャンルから紹介できると聞いた。とりあえず県民性も知りたいので、祭りについて聞いてみることにしたところ、とあるNPOスタッフを紹介してもらった。メールで待ち合わせたあと、セミナールームでお旅祭りについて話を聞いた。子ども歌舞伎があって、知仁勇の精神で頑張っていること、その一方で後継者となる子ども役者のなり手が少ないなどの悩みについても聞いた。いろいろ悩んだ結果、子ども役者のボランティアを育てる活動に取り組もうと思った。そして自分も参加して、そのときは東京の友人を招待したいと思った。

<施設に必要な機能(役割)>

マッチングセンター(仲介相談所)、ワンストップで相談できる場所

人物設定

小3の長女(9)

ナイジェリアの友人、AI

タイトル

距離の制限がなく、知識欲を満たしきる

ストーリー

GIGA端末に今週のリコメンドが来た。
これまでの嗜好に基づいたリコメンドや、類似の属性、都心部の同世代や、NYの同世代が興味を持っているリコメンドも。
今日は図書館には行けないので、端末でダウンロードを実施、気に入った本には「いいね」や一言感想を添えて返却する。
情報源が地域だけに限定されないことで、広い視野を持てるようになってきた。

小学校6年生になったら、最も興味のあるテーマは人口減少。豊かで持続性のある社会は、どうすれば訪れるのか、昨日もナイジェリアの友人と意見交換をしたばかりだ。

本体は、物理的なコミュニケーションを促進する場所である。市民が出資して、市民が運営、ニーズに触れることができる。

<施設に必要な機能(役割)>

文学、映像、音、あらゆる体験の電子化

人物設定

30～40代男性自営業、地元での活動と関わり、
住民主体のまちづくりを町の人とともにしている。
鉄が好き

・各種地域団体関係者
・仕事仲間
・中心市街地の方々

タイトル

市民主体のまちづくり拠点

ストーリー

地域活動や町会など、市民主体の活動をアーカイブする集まりに参加し2年目、現地点でのアーカイブは完成しつつあるが、更新していくためにどうするか3年目以降のことを話し合っている。また、活動している者同士がつながり成長していく場を構築し、図書館を拠点に情報集積とコミュニティの場の流れが生まれつつある。

市民主体のまちづくりをやってみたい町の方々が増えつつあり、勉強し、プラン依頼、実行へつながる。

ワークショップや発表を気軽に行える場、道具の販売、レンタル→ワークショップの方法などを共有する仕組み

<施設に必要な機能(役割)>

ポートフォリオアーカイブ

人物設定

学生Aさん:就活中

中小企業で働くBさん

タイトル

出会いの場をつくる

ストーリー

図書館には就活本や企業(市内の)研究のための本・パンフレットコーナーが設置されている。

↓

Aさんは、就活のためにそのコーナーを訪れる。

↓

パンフレットを提供しに来たBさんとAさんが出会う。

↓

AさんはBさんと会話することで、Bさんの会社について深く学ぶ、知る。Bさんは自分の会社の魅力を知ってもらえる。

↓

この出会いが就活で役にたったことから、就活イベントを立ち上げる。気軽に来れる場所。

⇒小松で働く魅力発見。直接リアルな話を聞ける。

<施設に必要な機能(役割)>

- 情報の数
- 人と人との交流の場
- 情報を求める人、与える人材

人物設定

小松市へ通勤している社会人

- ・小松市に通学している大学生
- ・小松市で長年生活している高齢者

タイトル

未来型図書館の過去を知る

ストーリー

2027年小松市に「こまつ22世紀図書館よもっさ」(読もうよ)が開館する。小松市へ通勤する「私」は仕事で、また仕事の合間に「よもっさ」を訪れ、近くに「みよっさ」「うらら」という小松方言を冠した文化施設があることを知り、たまたま図書館に来ていた地元の高齢者から、小松の方言や文化施設の立地場所の由緒や立地の経緯について話を聞く。これらの文化施設は22世紀まで持続可能な建築物であるとともに、絶えず未来型図書館とはどうあるべきかが利用者によって検討され、更新されている。空とこども絵本館が旧警察署の重厚堅牢なつくりをしつつ、現在、未来の利用者の需要に応じて運営も柔軟に方向転換を図りながら、盛んに活用されている様子に感心し、「よもっさ」もそうなるよう、自分のできることで参加していきたいと思う。通学している学生からは、外の視点でどういう魅力があるかを聞き、地元の高齢者からが小松市史などに漏れた細かな情報を聞き取っていき図書館のHPに集積したい。

<施設に必要な機能(役割)>

- ・ 町家を利用した貸本棚の情報を図書館で整理する。
- ・ 町家の空商店を利用して、商売を始める若者を支援し、彼らに貸し、隣の店舗の貸本棚の管理をしてもらう。